

学校規模等適正化に関する説明会（高陵小学校）における質疑回答

1. 日 時 平成 28 年 7 月 2 日（土） 午前 10 時から午前 11 時 10 分
2. 場 所 高陵小学校 体育館（参加者 54 名）
3. 事務局 管理部：俣野参事、益田参事、兼瀬課長、北村主幹、松尾代理、田中主任、廣瀬
4. 内 容

（質問 1）

統合校は改築するのか。また、答申に示されている「3 年前」とは、いつを起点とするのか。

（回答 1）

統合校は、新たな学校として整備改修していきたいと考えています。コスト面については、今回の答申では示されていませんが、財源の確保策は今後の課題として検討してまいります。また、実施時期については、（仮称）統合協議会を設置していただいた時点から概ね 3 年と考えています。

（質問 2）

学校が統合されても、校区コミュニティ協議会の合併は 1 から 2 年先に延ばすことができるのか。

（回答 2）

今後、（仮称）統合協議会を設置していただいた中で、それぞれの校区コミュニティ協議会において検討されるものと考えています。

（質問 3）

小学校は、防災拠点としての重要な機能を有している。避難所としての役割はどうなるのか。統合した場合、両地区を合わせて、体育館には収容可能なのか。

（回答 3）

避難所の在り方については、危機管理担当部署と連携しながら進めてまいります。

（質問 4）

現時点では検討されていないということか。

（回答 4）

両校の世帯規模は約 9,000 世帯となり、全世帯数を収容するのは厳しいと考えますが、避難所の在り方については、「地域防災計画」に伴い関係部署と連携しながら取り組んでまいります。

（質問 5）

統合の具体的な実施時期を教えて欲しい。また、中宮北小で出た意見や課題を教えてください。

（回答 5）

現時点において、具体的な実施時期は明確にお示しできません。また、中宮北小に

おける意見については、説明会を個別で実施している趣旨をご理解ください。

(質問 6)

統合校を改築している期間は、仮設教室を建てるのか。

(回答 6)

運動場に仮設教室を設置する案や暫定的に中宮北小を統合校とした後に、高陵小敷地に統合校を整備する案などが考えられますが、現時点では何も決まっています。

(質問 7)

教職員は、適正な一クラスの人数について、何人くらいと考えているのか。現場の教員の声はどのくらい反映されているのか。

(回答 7)

本市では、1年生から4年生まで1クラスの編制基準を35人と手厚くしています。また、学年1クラスではクラス替えができず、問題があるものと考えています。

(質問 8)

統合について具体的な説明が聞けると思って参加したが、本日の説明会の趣旨は、答申の内容の説明ということか。

(回答 8)

本日の説明会は、答申の内容を適切に説明するとともに、今後、学校規模等の適正化に関する基本方針を取りまとめるにあたり、皆様から様々なご意見をいただくことを趣旨とするものです。

(質問 9)

鉄筋コンクリートの耐用年数は47年となっているが、学校の築年数など実態的なデータをもとに、いつ頃改築するかなど、もっと具体的な説明をして欲しい。

(回答 9)

高陵小は、昭和43年創立で築後48年を経過している建物もありますが、問題はありません。学校整備については、文科省の指針に示された鉄筋コンクリート構造物の耐用年数などに基づいて策定した「学校施設整備計画」により、長寿命化改修の整備を行っていきたいと考えています。

(質問 10)

統合にあたっての財政的な裏付けについては、どのように考えているのか。また小中一貫校は、教育的観点から良いものなのか。

(回答 10)

財源の確保策については、今後の課題として検討してまいります。また、小中一貫校では、中一ギャップの解消や小中教員の連携、小学生の英語教育や生徒指導の面でメリットがあるものと認識しています。今後も、小中一貫校のメリットデメリットについては、引き続き、先進事例等を参考にしながら調査・研究してまいります。

(質問 11)

中宮北小の理解が得られなかったら、答申の内容が変わることはあるのか。

(回答 11)

答申の内容については、できる限りご理解いただけるよう、丁寧な説明を中宮北小の関係者の方々へ、引き続き行ってまいります。

(質問 12)

過去 3 校の小中学校の統合はどう進められたのか。

(回答 12)

平成 12 年度に北牧野小と村野小、平成 13 年度に村野中をそれぞれ対象校として統合を実施しました。また、北牧野小と村野小については、平成 11 年 6 月に審議会の答申が出された後、平成 12 年 4 月には統合が完了しています。当時は、あまりにも拙速すぎるという地域からの意見を受けており、地域コミュニティの融和が難しいなどの課題もあり、今後の取り組みの反省点と考えています。